２．各学科等の教員養成に対する理念

（1）文学部国文学科（中一種免（国語）・高一種免（国語））

国文学科では、本学の教員養成の理念を基礎にして、中学校・高等学校教員の養成を長年にわたって行ってきました。京都を中心とする近畿の府県のみならず、全国の都道府県において、本学科出身の多数の教員が教壇に立ち、成果を社会全般に還元しています。日本における教育環境の変化、教員に求められる役割の変遷に応じて、求められた責務を果たすことのできる優秀な教員の養成に取り組んでいます。

本学科では、現代社会における国語教育の重要性を鑑み、また、現代文、古文、漢文と、広範な教材に対応できるように、一年次から各分野・各時代の専門知識を修得できるカリキュラムを組み、高度なレベルですべてに対応できる教員の育成を目指しています。国語の基礎となる、日本語の言語としての機能については、国語学の講義・演習を設けることによって対応しています。また、多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できるよう、本学教育学専攻担当教員と連携し、十分な教員育成環境を備えています。

学業レベルの向上のみならず、人（自分）が生きるということはどういうことなのか、について文学を通じて常に問いかけ、学生自身で問題点を見出し、考察する訓練を通じて、すべての生活の基礎となる国語力を伸展させることで、教員となったときの、さまざまな現場での問題、特には生徒との対話という問題に対処できる教員として送り出すことを目標に掲げ、教育を行っています。

（2）文学部英文学科（中一種免（英語）・高一種免（英語））

英文学科は、本学の教員養成の理念を基礎にして、高い英語力及び言語としての英語や英語圏の文化・文学などに関する豊富な知識を身に付けた中学校・高等学校の英語教員を養成することを目指しています。その成果として、これまで関西だけでなく全国に向けて多数の教員を送り出してきましたが、現在も英語教育を専門とする専任スタッフを中心に、時代の要請に応えられる英語教員の養成に努めています。

本学科では、半期留学制度により、教職を志望する多くの学生が、英語によるコミュニケーション能力を体験的かつ飛躍的に伸ばす機会を提供しています。英語教育関連の科目において、英語教育の理論と授業実践の融合を図り、小学校における外国語活動・外国語をも視野に入れて小中連携についても配慮しています。さらに、養成する教員の質を保証するために、一定の英語力を有し、真に教員になり社会に貢献したいという強い意志のある学生のみが教職課程を履修するように指導しています。

今後も、教職科目と英文学科が提供する多様な科目を有機的に組み合わせることによって、英語教員としての力を初年度から発揮し、生涯にわたって主体的に学修を継続していく態度を身に付けさせる指導体制を整えていきます。

（3）文学部史学科（中一種免（社会）・高一種免（地理歴史））

史学科では、本学の教員養成の理念を基礎に、中学校（社会）・高等学校（地理歴史）教員の養成において長い歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本学科では、現代社会の中学・高等学校の一貫教育が求められる状況から、教職志望の学生に対して中学校一種免（社会）・高等学校一種免（地理歴史）を取得し、都道府県によっては学芸員資格が求められるため、これをあわせて取得するよう勧めるなど、より幅広い専門知識を有する教員としての基礎資質の育成を目指しています。歴史学・地理学・民俗学・考古学・政治学・経済学・宗教学・倫理学など、社会科教育・地理歴史教育に必要な多角的視野からの基礎知識とともに、史学科カリキュラムにおける歴史学研究の専門的知識・研究技法の修得により裏付けられた、たんに社会科や歴史地理の知識を伝達するだけでなく、それらを学ぶ意義を伝えることができる、社会科・歴史地理の教育者としての基本的資質を修得することを目指しています。

また、多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できるよう、本学における教育学専攻の科目の履修、教育学専攻担当教員との連携により、教員免許状取得に要求される十分な教員育成環境を備えています。

（4）発達教育学部教育学科教育学専攻（幼一種免・小一種免・）

◇幼一種免

教育学専攻では、本学の教員養成の理念を基礎に小学校教諭とともに幼稚園教諭の養成においても長い歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に実に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本専攻では、現代社会の状況から幼小一貫教育の必要性を踏まえ、大部分の学生が幼稚園一種免許状とともに小学校一種免許状をも取得し、幼稚園教育と小学校教育の連携にかかわる「小 1 プロブレム」等の問題にも対応できる教員としての基礎資質の涵養を目指しています。多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できる専門性を確立するために、教員免許状取得に必要とされるカリキュラムに加えて教育学専攻独自の科目群を配置するとともに、教育実習を複数校(附属小学校実習を含む)で行う体制をとっています。

さらに、近隣教育委員会との連携により、教育現場体験を積極的に得られる方策を行っています。教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力

を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)の育成こそが、教育学専攻の教育理念であり、目標でもあります。

◇小一種免

教育学専攻では、本学の教員養成の理念を基礎にして、小学校教諭養成において約 100 年の歴史を持ち、京都を中心とする近畿圏のみならず、全国に実に多数の教員を送り出し、その成果を社会全般に還元しています。日本における教員養成の変遷に応じて、それぞれの時代に求められる優れた教員養成のための改革にも、積極的に取り組んでいます。

本専攻では、小学校教育における様々な問題に取り組み解決できる能力を身に付けるために、大部分の学生が小学校一種免許状に加えて、幼稚園一種免許状を取得しています。幼稚園教育と小学校教育の連携にかかわる「小 1 プロブレム」という新たな教育状況にも対応できる、これからの教員にとって必要な能力の育成に取り組んでいます。そのために、教員免許状修得に必要とされるカリキュラムに加えて、教育学専攻独自の科目群を配置しています。自らの主体性に基づいた固有の専門性のレベルアップを目指せるゼミ演習指導を充実させるとともに、教育実習を複数校(附属小学校実習を含む)で行う体制をとっています。さらに、近隣教育委員会との連携によって教育現場体験を積極的に得られる方策を行っています。

教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)の育成こそが、教育学専攻の教育理念であり、目標でもあります。

◇特支一種免（知・肢・病）

教育学専攻は、小学校を中心として多くの教員を輩出し、社会からも大きな評価を得ており、本学の教員養成課程における中心・中核的な役割を担い続けて現在に至っています。

めまぐるしく変化する現代社会において、子どもたちや学校現場を取り巻く課題も複雑化・多様化しています。そのような環境のもとで教育を担う教員は、各教科の専門知識、指導法は言うに及ばず、「特別支援教育」の知識をはじめ、多様な資質・能力が求められ、しかも社会や学校が変化、進展する中で、自らの資質・能力の向上のために「学び続ける教員」であることが求められます。

教育学専攻における教員養成は、教員となる際に必要な最低限の知識と基礎的・基盤的な資質・能力を身につけたうえで、教職に対する情熱を持ち、生涯を通じて学び続けられる自立的な学習能力の育成を目指しています。また、子どもが置かれている状況を広く見渡し、一人一人の教育的ニーズを把握して、他者と協力して問題解決にあたることができる教員の養成を目指します。

そのために、人文、社会、自然など、広く深い教養を基盤とした、教育に関する専門的知識の提供はもちろんのこと、学習支援ボランティア活動等、学校現場における体験活動

も推進し、多くの子どもたちや様々な人たちと交流する機会を充実させます。

今日の学校は、複雑化する課題に対応するために、多様な専門性を持つ人材が連携・協力し、学力だけではなく、安全や健康など、子どものウェルビーイング（全体的な幸せ）を増進させることが求められています。このため、養成するすべての職種において、教育学的知識と特別支援教育に関する専門性を兼ね備え、福祉マインドをもって「チーム学校」の一員として、周囲の人々と協力・連携しながら活動することのできる教員を養成します。

（5）発達教育学部教育学科養護・福祉教育学専攻（養教一種免・中一種免（保健）・高一種免（保健））

本学は、平成 20 年度から家政学部生活福祉学科に養護教諭養成課程を設置して、生活者の視点に立ち、福祉に貢献する養護教諭を養成しており、毎年多くの養護教諭を排出し、社会的な信頼と評価を得ています。教育学科養護・福祉教育学専攻においても、その基本的理念と実績を継承しつつ、そこに教育学的素養に基づいた「教育と福祉の協働」という視点を取り入れることで、教員養成の更なる充実を目指します。

学校現場での複雑化・多様化するさまざまな問題に対応できる人材の育成には、広く柔軟な視点が必要となります。成長過程で、子どもたちはさまざまな問題を抱えていますが、子ども自身の身体・情緒面での健康・教育上の問題に留まらず、一人ひとりの家族背景やライフスタイル、価値観、地域特性、学校自体の支援体制などの理解も必要となります。こうした状況で、あらゆる発達段階に対応した適切な支援を実践するための高度な専門的知識や専門応用能力、技能、実践力、解決力を身につけるためには、本専攻の設置理念でも述べたように、人間の尊厳などの価値を踏まえて自らが社会的役割を実行するための素養である福祉マインドの涵養が必要となります。

このような素養を身に付けるために、体系的かつ実証的な学びを提供し、幼児期、児童期、青年期における健康管理や心のケア等の発達支援を行うことのできるエキスパートとしての養護教諭と、教育学に精通し、健康教育の十分な素養を兼ね備えて、時代の要請に応え得る中学校・高等学校教諭（保健）の養成を目指します。

（6）発達教育学部教育学科音楽教育学専攻（中一種免（音楽）・高一種免（音楽））

教育学科音楽教育学専攻では、本学の教員養成の理念のもとに、生徒たちの音楽的経験を豊かにすることができる中学校・高等学校音楽科教員の養成を目的として教職課程を設置しています。

本専攻では、学生自らが主体的に音楽を愛し、よく理解し、音楽的経験を日々積み重ねていくことが大切と考えています。そのためには、ピアノや声楽、管楽器や和楽器、作曲などの実技はもちろん、音楽の理論や歴史に関する幅広い基礎知識を十分身に付け、この世界や人間に対するいきいきとした関心によって豊かなイメージを生み出し、音楽の表現力や理解力を高めることが必要です。それを実現するべく、本専攻ではカリキュラムを編

成しています。また、音楽を教えるには、言葉で表現しなければならず、また教える相手のことや学校教育をよく理解しなければなりません。本専攻は教育学科の中に置かれているため、現代の教育学のさまざまな知見を得ることができ、それによって教育現場で柔軟に対応していく力が培われます。

音楽を中核としながら、このように幅広く学ぶことによって、自らの能力を伸ばし続けるとともに、音楽を通じて世界や人間に対する理解を深めることができれば、音楽によって世界や人間に対する関心を広げるような教育を行うことができます。

教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師(「学び続ける教師」)の育成を目指します。

（7）発達教育学部児童学科（幼一種免）

児童学科では、本学の前身の一つである昭和 5 年（1930）開設の本派本願寺保姆養成所（昭和 19 年京都保姆養成所に改称）以来、本学の教員養成の理念に基づき、幼稚園教諭の養成に取り組んできました。その結果、地元である京都および近畿圏のみならず、全国に実に多数の教員を送り出し今日に至っています。またその中からは、各地の幼児教育の現場で指導者的役割を担う者も数多く輩出しています。

本学科では、今後の幼保連携型認定こども園への移行の動きなどを踏まえて、就学前の子どもたちの教育・保育の多様な問題に対応できる保育者の育成を目指しています。平成 12 年度には厚生省保育士養成課程の認可を受け、幼保連携を推進し、就学前の子どもたちの保育・教育を担う人材の育成に取り組んでいます。ほとんどの学生が幼稚園一種免許状とともに保育士資格をも取得しています。また、児童学科で学ぶことの特色を発揮して、発達・保健・文化・表現の多様な科目群を配置することにより、理論と実践の両側面からの充実を図っています。さらに、近隣の幼稚園・保育所あるいは児童館などとの連携により、現場体験も確実にできるよう充実した体制を取っています。

多様な教育問題に直面している教育現場において、「学び続ける教師」として積極的に教育問題に対応できる教員の養成を目指します。

（8）家政学部食物栄養学科（栄養一種免・中一種免（家庭）・高一種免（家庭））

◇栄養一種免

食物栄養学科では、本学の教員養成理念のもとに、社会の幅広い分野で活躍できる食と健康の専門家を養成しています。家庭科教諭（中・高）、保健（中・高）の教員養成において長い歴史を持ち、卒業生は近畿圏のみならず全国において、家庭科教諭や学校栄養士（栄養教諭・栄養職員）等として活躍しています。

平成 17 年の栄養教諭資格創設に伴い課程認可を受け、栄養教諭養成に努めてきました。「食育」の重要性など、近時の強い社会的要請を受け、より教員としての資質の高い栄養教諭の育成を目指しています。平成 18 年度から本学附属小学校との小大連携による、「附

小ランチ」を実施し、学生が献立を作成し、食育指導を行うことで、食の専門家としての高い知識・技術と教員としての資質向上を目指してきました。平成26年度から学校給食が導入されたことに伴い、食育メモ・媒体作成および食育放送を学生が行っています。また、「お楽しみ献立」と称し、学生自身が生きた教材としての献立作成、食育を実施しています。教材としての学校給食の献立作成、および給食を活用した食に関する指導（給食指導）は極めて重要であり、これらの経験を通じてより実践的な力を身に付けた栄養教諭を育成していくことが本学科の教育理念であり、目標です。さらに、京都市内の食育研究指定校等との連携により、教育現場体験を積極的に取り入れ、実践力・コミュニケーションスキルの育成にも努めています。

教員になった１年目から栄養教諭としての諸能力を発揮でき、「学び続ける教師」の育成を、教員養成の目標としています。

◇中一種免（家庭）、高一種免（家庭）

食物栄養学科では、本学の教員養成の理念に基づき、社会の幅広い分野で活躍できる食と健康の専門家を養成しています。多くの学生が、入学時点から栄養教諭や中学校・高等学校の家庭科教諭をめざし、栄養教諭一種免許状、中学校一種免許状（家庭）、高等学校一種免許状（家庭）を取得しています。

本学科の学びの特徴は、「食・栄養・健康」の専門的な知識を深めるところにあります。現在わが国で食物栄養学を学ぶ学科のほとんどの大学が管理栄養士課程ですが、その中で、家庭科の教員免許状を取得できる大学は一部の大学に限られています。本学では、食や食育の専門性を生かして、家庭科の総合力を育成する教育を実践しています。その結果、多くの学生が、家庭科の教員免許状に加えて栄養教諭の免許状も取得しています。

このように食や健康についての広くて深い素養を生かし活躍できる教員を育成することが、本学科の教員養成理念であり、教員になった 1 年目から教諭としての諸能力を発揮でき、「学び続ける教師」の育成を教員養成の目標としております。

（9）家政学部生活造形学科（中一種免（家庭）・高一種免（家庭））

生活造形学科では、本学の教員養成の理念に基づき、学科創設以来、家庭科教諭（中･高）の教員養成を行ってきており、卒業生は関西をはじめ、全国で家庭科教諭として活躍しています。

生活造形学科における学びの特徴は、「意匠･アパレル･空間」の３つの観点から、快適な生活環境・生活空間を創造するための専門的知識を修得することにあり、また、「衣生活領域」「住生活領域」「衣生活・住生活と文化」「持続可能なライフスタイル」「ホームプロジェクト活動」など、家庭科教員に必要な知識の修得と実験・実習を通した技術を体験的に修得させることにあります。家政学部内に設置されている食物栄養学科が開設する授業と合わせて単位を修得することにより、中学校一種免許状（家庭）、高等学校一種免許状（家

庭）を取得することができます。また、実際の教育現場での体験を行う教育実習で生じる教職に対する不安や課題については、教職実践演習により解決を図るなど知識の定着を目指しています。

生活技術の革新により、生活環境や家庭を取り巻く社会の変化は著しく、快適な生活環境を創造する力がますます求められています。家庭や地域の生活課題に主体的に取り組み生活の充実と向上を図る知識と技術を修得し、中学校･高等学校の家庭科教諭にむけての学びを通して主体的に他者との相互理解に努め、柔軟な姿勢で予期せぬ変化に対処しうる人材の育成、教員としての倫理観・責任感を持った人材の育成を目指しています。

教員になった 1 年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その後も学び続ける教師であることを教員養成の目標としています。

（10）現代社会学部現代社会学科（中一種免（社会）・高一種免（公民）・高一種免（情報））

◇中一種免（社会）・高一種免（公民）

現代社会学科では、本学の教員養成の理念を基礎に、現代社会におけるさまざまな問題を多角的に認識したうえで、その解決のため他者と創造的に協働することの重要性と方法を生徒たちに伝えることができ、自身も生涯その知識と能力を伸ばす努力を行う、高い倫理観と責任感を持った教員の養成を目指しています。

現代社会学科では、このような教員の養成をできる科目群を教職課程として配置し、とりわけ、教科専門科目である、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」については充実したプログラムを提供しており、まさに社会科・公民科教員養成に相応しい科目構成となっています。これら科目を修得し教員養成課程を修了した学生たちは、社会に貢献しうる教員として大きな役割を果たすと考えられます。これらの科目に加えて、現代社会に関する幅広い分野の科目の履修により、複眼的視野から発想する力やそれを実現するスキルを身に付けた人材の育成が可能です。

教員となった 1 年目から教員としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教員の育成を目指しています。

◇高一種免（情報）

現代社会学科では、本学の教員養成の理念を基礎に、現代社会におけるさまざまな問題を多角的に認識したうえでその解決のため他者と創造的に協働することの重要性と方法を生徒たちに伝えることができ、自身も生涯その知識と能力を伸ばす努力を行う、高い倫理観と責任感を持った教員の養成を目指しています。

本学科では、このような教員の養成をできるような科目群を教職課程として配置し、とりわけ、情報分野に関しては情報科学、情報工学系の科目および情報技術と社会の接点を学ぶ科目を提供しています。さらに、社会基盤の一つとなっている情報社会や情報倫理への深い理解を身に付け、情報システムや情報通信ネットワークを深く理解できることを目

標に、高度なプログラミングやネットワーク運用のスキルや、人間とコンピュータの関係や情報技術者の社会的責任について理解を深めるための科目も提供しています。これらは高等学校情報科の教職課程で求められる内容とも合致しており、教員養成課程を修了した学生たちは、社会に貢献しうる教員として大きな役割を果たすと考えられます。これらの情報分野の科目に加え、現代社会に関する幅広い分野の科目の履修により、複眼的視野から発想する力やそれを実現するスキルを身に付けた人材の育成が可能です。

教員になった 1 年目から教諭としての諸能力を実践的に発揮でき、学び続ける教員養成を目指しています。

（11）法学部法学科（中一種免（社会）・高一種免（公民）

法学部法学科では、「高度の専門性・人間性・共感性」を身に付けた教員を養成することを目標としています。本学科の教育課程により、高度な専門的知識を身に付けると同時に、社会における多様な立場の人々への理解と共感に基づいた人権意識を持つことが可能となり、「高度の専門性・人間性・共感性」を身に付けた教員の養成が可能となると考えています。

法学は、現代社会における最も重要な社会システムの一つを対象とする学問領域であって、現代社会を理解し、市民として生活し、よりよい社会を構築していくために、法学専門教育を受けた教員は大きな役割を果たすと考えられます。また、本学科の「法化社会の中で、社会の法的諸問題を自ら発見し、その解決に主体的に取り組み、法的処理する実践的能力を持つ『女性の知性と人間性』の涵養」という教育目標のもとに育成された人材こそが、子どもたち一人ひとりを、21 世紀にふさわしい市民意識を持つ社会人となるよう、育み、共感を持って支援し、エンパワメントできる教員となると考えられます。

教壇に立った 1 年目から教員としての諸能力を実践的に発揮でき、学び続ける教員養成を目指しています。